

課 題 名：鶏卵肉高付加価値化生産技術開発試験（肉用鶏）
担当部署名：愛媛鶏研・家禽研究室
担 当 者 名：大北栄人、坂本恭一
協 力 分 担：なし
予算(期間)：県単（2014-2018年度）

1. 目的

これまでに、飼料自給率向上対策として、採卵鶏や当所開発の特産肉用鶏「媛っこ地鶏」における飼料用米給与技術を開発し、生産性を維持した飼料の低コスト化技術を確立した。しかし、依然続く配合飼料価格の高騰による生産コストの増大や消費者ニーズの多様化等、新たな課題に対応する必要性が増している。そこで、鶏肉の高付加価値化や差別化を目指した生産技術を開発し、小規模養鶏農家の経営安定を図る。

2. 方法

肥育前期において、高タンパク低エネルギー飼料が成長に及ぼす影響を調査する。また、なたね油脂肪酸カルシウム(なたねCa)を1%配合した飼料を調製し、媛っこ地鶏の肥育後期に給与して市販配合飼料と比較検討する。

供試鶏：媛っこ地鶏(WR13系×(しゃも(ロード×名古屋)))
試験期間：28～♂105(♀126)日齢(平成29年5月10日～8月23日)
供試羽数：各区50羽
試験区分：

| | 区 分 | 羽 数 |
|-----|-----------|---------|
| 前 期 | 高 CP 低 ME | 100羽×2区 |
| | 対照区 | 100羽 |
| 後 期 | なたねCaあり | 50羽×2区 |
| | なたねCaなし | 50羽×2区 |
| | 対照区 | 50羽×2区 |

調査項目：体重、飼料消費量、解体成績(と体重、部位別重量・比率)、モモ肉中脂肪酸組成

3. 結果の概要

- ・肥育前期の増体量は、高 CP 低 ME 区が 653 g、654 g と対照区 573 g に比べて 80 g、14%優れていた(表1)。飼料摂取量は、
- ・肥育後期においては、8 週齢まではなたね Ca 区は遜色ない増体量を示したが、15 週齢では、有意差はないものの若干劣る成績となった。

解体成績には、大きな差はみられなかった。

- ・もも肉中の脂肪酸組成は、給与したなたね油脂肪酸カルシウムの影響をそのまま受け、cisC18:1 及び C18:3n-3 が増加した(表2)。

4. 結果の要約

なたね油脂肪酸カルシウム1%を含む飼料を調製したことにより。もも肉中の脂肪酸組成は、cisC18:1 及び C18:3n-3 が大きく増加し、n-6/n-3 が市販飼料給与に比べ大きく改善され7.2(15.6)、食味もあっさりとした特徴ある鶏肉生産の可能性が示唆された。

[キーワード] 媛っこ地鶏 なたね油脂肪酸カルシウム n-6/n-3

5. 今後の問題点と次年度以降の計画

市販配合飼料に脂肪酸カルシウムを上乗せ添加したため、対照飼料に比べて高カロリー飼料となったこと、28日齢体重が脂肪酸カルシウム給与区で小さく、28日齢以降に給与する方が効果が高い可能性が示唆されたことから、対照区にも大豆油脂肪酸カルシウム等を添加してカロリー調整すること、28日齢以降で試験することを検討。また、鶏肉の肉質、食味等も検討。

6. 結果の発表、活用等（予定を含む）

愛媛県畜産研究センター研究報告に掲載予定
媛っこ地鶏生産農家への助言指導